不定期刊行　　第429号　2011.11.23

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

池工山岳部、晩秋の八ヶ岳編笠山

池工山岳部の11月山行を11月19日（土）（日）に、来年度の県大会のコース八ヶ岳編笠山・西岳で行なった。低気圧の通過で土曜日は大荒れの天気。最初からこの日は焼き肉でキャンプをしようと決め込み、午後1時30分に学校を出発。既にシーズンを終えて閉じている立場川キャンプ場に向かった。3時ザンザン降りの中、キャンプ場に到着、無人のキャンプ場にさっそくテントを張ってティタイム。外の雨音を聞きながら、一休みの後、テントの中で焼き肉をはじめた。天気図を見ると、低気圧は夜のうちに抜けて冬型が強まる感じ。この様子なら恐らく明日は回復するだろうと読む。今回は生徒は5人、顧問が2人。2人の2年生の指示で、1年坊たちも段々テント生活が様になってきて、何も言わなくても動けるようになってきた。

汗もかいていないが、夕食後、八峯苑鹿の湯温泉（ここは来年の県大会のスタート地点）に行って、汗を流す。激しく降っていた雨もこのころから止み、明日の天気が期待できる。温泉は人間を開放的にする。生徒と裸の付き合いをしていると、何でもない話から意外と本音を聞き出せたりもする。温泉から帰る途次、鹿の群れに道を塞がれ生徒たちはびっくり。八ヶ岳山麓は鹿が多いいのだ。夜も何度か鹿の鳴く声で目が覚めた。

5時起床。低気圧は東の海上に抜け去り、雨はすっかり上がった。県大会と同じコースを辿るべく、編笠山の登山口へと移動。車回しの後、出発したのは7時25分。読図をしながら、編笠山を目指す。8時30分1620mの林道との合流地点で1本。落葉松の葉も全て落ちた林は明るい。この先は地図上の登山道と実際の道がずれている（GPSデータ参照）上に、山そのものが名前の通りの笠状の山ゆえ、読図は難しい。そんなわけで意外と時間を食った。頂上直下、樹林帯を抜けた岩場では、強烈な季節風が吹き付け、その冷たさと厳しさの洗礼を受けた生徒たちは、往生していた。頂上に着いたのは11時20分。到着したときにはガスっていたが、しばらくするとそのガスも切れ諏訪の平が一望でき眼下に広がる景色に歓声があがった。頭こそ隠していたが富士山も見えた。しかし、やはり冬型の気圧配置、北アルプス方面はどんよりとした暗い雲に覆われていた。それまでは人っ子一人出会わなかったが、頂上には3パーティほどの人がいた。

青年小屋に下ると、まだ畳のにおいが香る新設されたばかりのきれいな冬期小屋が興味をひいた。そこから西岳に向かい、あとはひたすら下った。西岳からの下りはおよそ2時間、最後は、林道を大回りして延々と歩くのも癪に障ったので、尾根上からキャンプ場をめがけてショートカットして下った。時に15時25分。池工から見る後立山の峰々は日に日に白さを増し、冬化粧をしているが、八ヶ岳はまだ雪のゆの字もない晩秋の山だった。

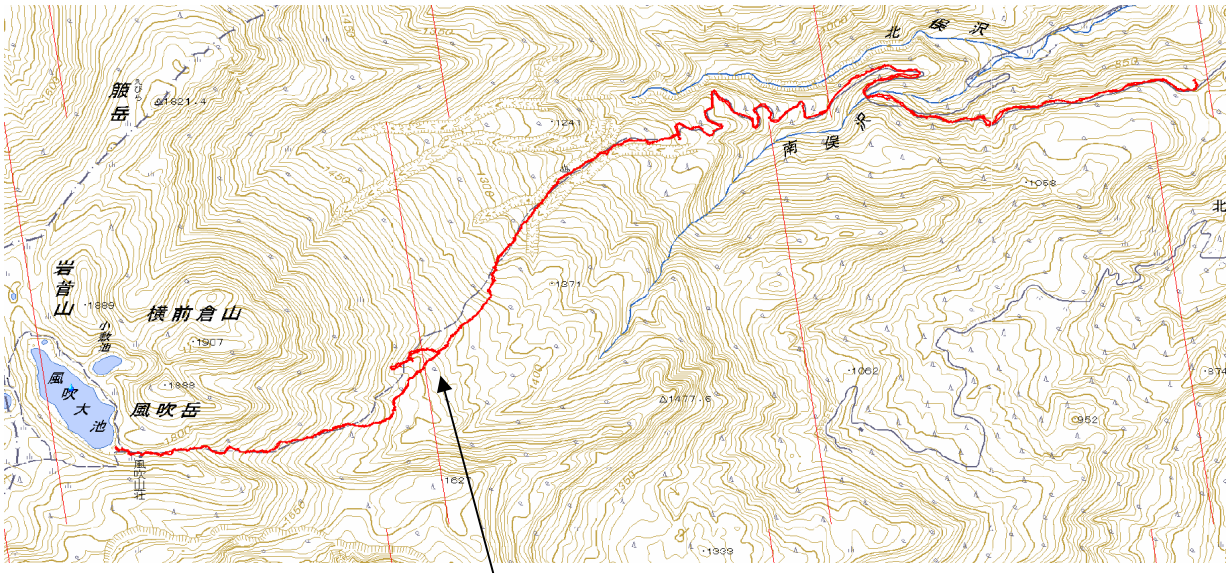
初冬ラッセルの風吹大池

勤労感謝の日、信高山岳会の例会で、風吹大池に行ってきた。何かの塩梅でいきそびれている山がある。私にとって風吹もその一つであった。昨年の信高の総会の折、秋の

例会をこの山でという提案をしたのは小生であった。計画をしてくれたのは、事務局の沼田さん。彼女と大町北の小林さんが今回の参加者。なんと 3 人とも風吹は初めてという。雪の状況が心配される中、朝 6:30 ノーマルタイヤの車で白馬高校の合宿所を後にした。案の定林道の標高 900m 地点に雪が出てきた。これ以上進むリスクは冒せないとその地点に車を置いて歩き出す。雪山なんて久しぶりという小林さんが大丈夫かなぁといいながらプラブーツを履いた。出発は 7:25、およそ 1km ほど歩いたところで、小林さんの「あれっ」という声。見るとプラブーツが破壊されていた。たまたま履き替える前の靴が登山にも使えそうな靴（登山靴ではないが・・・）だったので、履き替えに戻った。小林さんが戻ってくるまで、沼田さんと「先ごろ出版されていた失敗アクシデント集がもしまだ出ていなければ格好の話題提供になった」などと話す。靴の底剥がれ、プラブーツの破壊はこれまで何度も見たし、自分自身でも経験がある。登山口付近だったからまだよかったが、命にも関わることである。これらのトラブルはいつ起こるかわからないので、普段は意識しないが実は非常に怖いことである。

さて、小林さんの到着を待って、再び出発。林道終点の登山口に着いたのは 8:40、1 時間余りの余分なアルバイト。スパッツを装着して山道に入る。登り初めて暫く進むと痩せ尾根になり、その先は地図上に温泉マークのある沢。硫黄のべったりはりついた黄色い沢が目を引いた。雪は予想外に多く、膝ほどのラッセル。10:15 なんだか道の様子がおかしい。急に倒木が目立ち歩きにくくなった。雪のせいで木が寝ているのかと思いながら沢地形を進んでいく。GPS で確認すると自分たちのいるところがルート上なので、安心して進んでいったが、どうも様子がおかしい。40 分ほど道を探すがみつからない。現在地は同定できるが、中途半端な雪の量なので、どうにもこうにも進めない。もっと雪が深ければこのまま突っ込むこともできるのだが・・・。しかし、もしかして道を間違えているのではと一旦戻ることにした。結果的にはこれが正解で、僕らは沢を越えてつけられている道をそのまま直進していたのだった（下図参照）。「道迷いの時は、確実なところまで戻る」鉄則を守ったことで、事なきを得たが、これもくだんの失敗アクシデント集への格好な材料だったなどと思わされたことである。しかし、地図の道が違っているのは、困りものである。それによって惑わされてしまった。

その後は次第に雪深くなったものの順調で 12:25 に風吹大池に到着。冬の大池は薄い氷によって全面が覆われていた。13:05 に大池を後にし、14:10 には登山口着。長い林道を歩いて車に到着したのは 15:00 だった。・・・同じ長野県でも南は秋、北は冬。3 日違いで両方が楽しめた。



我々の道迷い箇所